

令和5年度 墨田区立曳舟小学校 経営報告書

校長名 松塚 智加子

学校目標	「自主・自立」の精神で活動する児童 ・すすんで学ぶ子 ・なかよく助け合う子 ・心も体もすこやかな子
目指す学校像	・笑顔と活力にあふれ、児童一人一人が自分のよさや個性を發揮できる学校 ・全ての教職員が協働し、質の高い教育活動の実現を目指す学校 ・保護者・地域の方々に信頼され、地域のコアとなる学校
目指す子供像	・生涯にわたって学ぶ意欲をもち、生きる力の基となる考える力のある子供 ・自分も相手も大切にし、協同してやり遂げることができる子供 ・心身ともに健康な体をつくり、自分のよさや個性を發揮できる子供
目指す教師像	・常に子供ファーストの視点をもち、専門性向上に努める教師 ・全ての教職員が協働し、チームとして高め合える教師 ・教育公務員としての自覚と使命をもち、保護者・地域の方々から信頼される教師

1 自己評価結果と学校関係者評価の状況（事前回答 8名）

項目	取組目標	自己評価		学校関係者評価		
		達成状況		〇分析 ・改善方策	自己評価について	改善策について
		取組指標	成果指標			
各教科等指導等	(1) 基礎的な学力の定着・向上	A	B	〇毎時間、各教科において、めあてやゴールの明確化、自力解決、学び合い、まとめと振り返りを明確にした授業展開を行うことができた。 ・習熟度別の算数学習では発展的な課題の開発を進める。	A	A
	(2) 論理的思考力・表現力を高める	A	A	〇各単元を問題解決的な学習として設計し、思考ツールや、プレゼンテーションソフトを活用した発表活動を行うことができた。 ・中高学年を中心により説得力のある表現を身に付けさせることを目指す。	A	A
	(3) 探究的な学習の推進	A	A	〇6年生は卒業研究に取り組み、プレゼンテーションソフトを用いて発表することができた。 ・3年生から段階的に、単元や学年のまとめなどで探究的な学習に取り組むようにする。	A	A
	(4) 読解力の育成(校内研究)	A	B	〇低中高学年各1回ずつ、計3本の研究授業を実施し、講師を招聘して研究を深めることができた。 ・今後も「主体的・対話的で深い学び」に向けて、成果を生かした授業改善に取り組んでいく。	A	A

様式 4

(5) 情報活用能力の育成（多様なメディアの活用）	A	A	○高学年は月1回以上、新聞やインターネット等の多様なメディアを活用した授業を行うことができた。 ・ 今後は中学年から段階を踏まえた指導を行う。	A	A
(6) 健康の保持・増進、体力向上	B	B	○体育の授業において、45分のうち、30分は運動する時間を確保することができた。 ・ 今後も20分休み、昼休みの外遊びを推奨する。	B	A
学校関係者評価委員会 の評価委員による、学校運営の改善に向けた実際の取組についての意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科指導の取組として目標をかかげていて、すばらしいことを行っていると敬服している。具体的な評価は、実際に見ていないので、分かりにくい。 ・ 学習のことは、ただただ感心するばかり。体力向上も重要だが、学校でできることは限られる。地域全体で気運を作り出せば良い。 ・ 各項目の分析で、「…を行うことができた。」と示しているが、具体的な内容が分からないため、評価しにくい。来年度は内容の資料か説明があるとありがたい。 ・ 算数学習の「発展的な課題の開発」とは、どのようなものか。 ・ 毎年同じ分析・改善策ではなく、時代に合ったより良い改善を今後も続けてほしい。 ・ ICT教育のさらなる推進を期待する。 				

項目	取組目標	自己評価		学校関係者評価		
		達成状況		○分析 ・ 改善方策	自己評価について	改善策について
		取組指標	成果指標			
生活指導等	(1) 教育活動全体を通じた人権教育、道徳教育の推進	A	B	○毎週の児童朝会にて、月1回は人権教育や道徳教育をテーマにした校長講話を行った。 ・ 道徳の授業の時間を大切にし、より多様な考えを引き出し、道徳的実践力に繋げるようにする。	A	B
	(2) いじめ、不登校の未然防止	A	A	○毎週の生活指導夕会を通して児童の実態を理解し、児童の抱える悩みや背景も考慮した支援方法について共通理解を図り、いじめ解消率100%を維持することができた。 ・ 今後も特別支援教室専門員やスクールカウンセラー、外部機関との連携を深めるとともに、どの問題にも組織で対応していく。	B	B
	(3) 個性を生かせる集団づくり	A	B	○生活アンケートを活用して、児童の気持ちを受け止め、学級経営を行うことができた。 ・ 全学級がより落ち着いて学習に取り組むことができるように、自分も友達も大切にする指導を続ける。	A	A
	(4) 異学年交流の推進	A	A	○たてわり班活動を月1回以上実施し、高学年の児童が中心となって交流を進めた。	A	A

様式 4

				・遊びに限らずたてわり班に適した活動を工夫していく。		
(5) キャリア教育の推進	A	A		○全体計画のもと、他教科や領域と関連付けながら、児童一人一人が低学年から将来のことを考える機会を意図的・計画的に位置付けることで、一人一人のよさや個性、適性に気付かせ、自己の将来に希望をもたせることができた。 ・PTAとも協力して、地域の人材を生かしたキャリア教育について工夫していく。	A	A
学校関係者評価委員会の評価委員による、学校運営の改善に向けた実際の取組についての意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・生活指導の範囲と内容が広く深く、今の時代は大変だと思う。 ・(5)「低学年から将来のことを考える」ということは、一人一人の夢を育むということでしょうか。 ・高学年の学級の状況について、耳に入ってきている。難しい年齢の集団のため教職員だけでは負担になる可能性もあるので、外部の専門家等の力を借りて改善してほしい。 ・保護者の評価を重視してほしい。 ・いじめ、不登校の防止には積極的に取り組んでいることが伝わる。キャリア教育について、さらなる充実を期待する。 					

項目	取組目標	自己評価		学校関係者評価		
		達成状況		○分析 ・改善方策	自己評価について	改善策について
		取組指標	成果指標			
学校の管理運営	(1) 学校運営システムの改善・充実	A	B	○業務の棚卸しをするとともに、分担及び責任の所在を明確にした。 ・次年度は分掌組織を大幅に改編するため、今年度から準備を行う。	A	A
	(2) 教職員としての専門性向上	A	A	○年間3回、各種研修等に参加し、学習指導力、生活・進路指導力を高めることができた。 ・今後も若手教員に対して、継続した指導を行っていく。	A	B
	(3) OJT・校内研究の推進	B	B	○他校や外部研修機関等の研修会に参加し、還元研修を行うことで、一人一人の授業力や教育力を高めることができた。 ・学年を基本としたOJTを繰り返し行い、より広い視野と高い見識のある教員を育成していく。	B	B
	(4) サービスの厳正	A	A	○夕会や毎月のサービス事故防止研修を行い、サービス事故0を維持している。 ・教員間で日常的に言葉を掛け合う雰囲気を醸成し、サービスの厳正について意識を高めていく。	A	A
	(5) 「働き方改革」の推進	A	B	○最終退勤時刻を20時に設定し、出張帰りの直帰、定時退勤日を推奨することで、超過勤務の教員は減ってきている。 ・OJTや業務の見直しも含めて、より効率的・効果的な働き方について取組を推進していく。	A	B

様式 4

<p>学校関係者評価委員会の評価委員による、学校運営の改善に向けた実際の取組についての意見等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の育成等は校内で取り組んでいることと思う。 ・超勤の減少やOJT・業務の見直しなどで働き方改革は必要だが、来年度から土曜授業日減で、児童に授業内容の負担増にはならないか。また、国や都の問題だが、一番の解決方法は教員を増やすことだと思う。 ・以前に比べて夜遅くまで、また休日に教室の電気がついていることが少なくなった。一層の教職員の働き方改革に期待する。教職員の心身のケアもお願いしたい。 ・働き方改革の推進は、教員の健康とより良い生活を確保するために賛成する。子供を中心として、教育の質や安全の確保との両立も必要。
--	--

項目	取組目標	自己評価		学校関係者評価		
		達成状況		○分析 ・改善方策	自己評価について	改善策について
		取組指標	成果指標			
家庭・地域連携	(1) 学校・家庭・地域が一体となった取組の推進	A	A	○学習の中で地域人材や地域施設の活用を図り、学習ボランティア、おはなし会、学校図書館ボランティアを通して、保護者や地域の方々の協力を得ることができた。 ・今後も年関を通して、計画的に教育活動に関わってもらうようにする。	A	A
	(2) 保幼小中の連携教育の推進	A	A	○年間3回の保幼小中連携を行い、関係機関と連携を密にすることができた。 ・各校(園)との行事の連携など、今後も計画的に進めていく。	A	A
	(3) 学校評価を活用した教育活動の推進	A	A	○児童や保護者の思いを学校全体で共有するとともに、保護者会、個人面談、学校関係者評価方法等の進め方を見直し、学校の取組や改善をわかりやすく示すことができた。 ・今後も学校公開や各行事後のアンケート等で寄せられた意見に迅速に対応し、学校だより等を通して周知するようにする。	A	A
	(4) 積極的な情報発信	A	B	○学校だよりや、ホームページで学校の情報を迅速に発信するとともに、教育活動の様子なども定期的に発信することができた。 ・保護者会において学級や学年の様子を具体的に伝えるためにもICT機器等を活用していく。	A	A
	(5) ひきふね図書館をはじめとした近隣機関・施設との連携	A	B	○児童館や墨田区子育て支援総合センター、児童相談所、警察、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等と連携し、児童や家庭の支援を行うことができた。 ・来年度もひきふね図書館を定期的に利用していく。また、個別の対応が必要となる児童について、より適切に外部の機関と連携していく。	A	B

様式 4

<p>学校関係者評価委員会の評価委員による、学校運営の改善に向けた実際の取組についての意見等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会との関係は努力していると思う。 ・町内の公園などで多くの子供たちが友達と和やかに遊んでいる姿を見かける。 ・西公園を集積場所として毎月、資源回収が行われ多数の子供たちが参加している。同時に西公園内の美化清掃も手伝ってもらっている。概ね、児童は落ち着いて生活していると思う。 ・行事などについて、学校だよりを通して把握している。 ・(3)の見直しは十分達成されたとは思えない。外部委員はこの評価書では記入しにくいと思う。保護者等の評価を参考にして記入するなどの方式を検討してほしい。 ・この項目では、新たな取組がないように思う。例年行っていて「できる」のは当たり前。少しでも新たな取組に期待する。 ・地域住民としては、コロナ禍前と比べて関係性が非常に薄くなり、町会行事として、子供会の協力と地域祭礼を通して子供たちに接する機会等でしか接することができない。一部の評価項目でしか、評価をすることができなかった。 ・学校評価を活用した教育活動の実態があまりよく見えないので、効果的な「見せる化」を検討し、周囲と連携してほしい。 ・町会、子供会、PTAの連携の強化に努めていきたい。 ・町会の行事や地域のイベントなどは、コロナ禍を経て、少しずつ戻ってきている。
--	--

2 令和5年度学校評価のまとめ

<p>本校の教育活動について、昨年度同様、肯定的な意見を多くいただいている。特に、「楽しく学校生活を送っている」という項目では、97%の保護者が肯定的な回答をしている。また、学校行事について、95%の保護者が適切に実施していると回答している。来年度も、良い評価をいただいた項目について、振り返りと引継ぎを十分に行い、一層の改善を図る。</p> <p>一方で、「教育活動の発信」については、11%の保護者があまり十分ではないと回答している。来年度は、特に学校ホームページの運営に注力し、保護者や地域の方にとって分かりやすい情報発信を行っていく。</p> <p>学校関係者評価では、自己評価結果について概ね適切であるとの評価結果であった。次年度も評価結果に基づいた教育活動の推進を図る。</p>

以上の通り報告いたします。

墨田区立曳舟小学校 校長 松塚 智加子 公印